

105)

## 成人気管支喘息に対する臍帯埋没療法 (Umbilical Cord Implantation ; UCI) の治療成績 (第3報)

UCI 庄司クリニック<sup>1</sup>。自治医大臨床病理<sup>2</sup>。富士レビオ，中央研<sup>3</sup>。SRL<sup>4</sup>。

ルカ庄司剛<sup>1</sup>，櫻林郁之介<sup>2</sup>，笠原靖<sup>3</sup>，赤石清美<sup>4</sup>，坂本吉朗<sup>5</sup>，李秋遠<sup>6</sup>

成人気管支喘息に対し臍帯埋没療法 (UCI) を行った治療成績の遠隔成績を報告する。1988年1月迄にUCIを2回以上行った成人気管支喘息，男163名，女168名計331名である。348名の患者に対し回答をお願いし，回答率95%であった。UCIの平均回数は1人当り4.6回。以前は冷凍臍帯を使用したが生1984年4月からは分娩直後の臍帯を，+4℃のハンクス液中に保存し，分娩後15日以内に埋没している。治療効果の評価は，治療後少なくとも10ヶ月以上たった時点で，日本アレルギー学会成人気管支喘息重症度判定基準に従い，治療前1年間の重症度と比較して，2段階以上改善したものを著効，1段階改善したものを有効，無効には不変，悪化以上を含む。無効64例中，悪化3例，死亡6例を含むが，悪化，死亡はUCIとは全く関係ない。①気管支喘息の病型とUCIの治療効果。混合型をアレルギー型と一緒にし，40乃至50数種のスクラッチテストをやり，更に抗体反応によっても抗原を見出しえないものを非アレルギー型とした。之らの区分をIgE (RIST) 300単位以上と以下に分け検討した。331例の有効率80.7%。②重症度とUCIの効果。331例中，中等症が242例(73.1%)と最も多く治療されており，多くが従来の薬物療法で治療されている事を考えると有効な治療法であると言える。中等症，軽症の症例を検討すると，アレルギー型に比べ非アレルギー型が，有効率低い傾向にある。③喘息発症からUCI実施迄どの位，期間があったかを検討すると331例中195例(58.9%)が10.8年以上の喘息歴をもっていた。④UCI施行後の効果持続。325例の症例の最終のUCI後の効果を追跡してみると，有効3年以上5年まで78例(28%)，1年以上3年迄(平均2.6年)162例(50%)合計78%有効。スライドによって，IgE (RIST) とCD<sub>4</sub>/CD<sub>8</sub>比20例を表示する。

結語。UCIはアレルギー型喘息，非アレルギー型のいずれにも効果があり，効果は持続的であった。多くの症例が長期の薬物療法を経験してからUCIをうけて居り，中等症が主体であった。したがって難治性喘息に試みる価値があると考えられる。既に述べたように，UCIが非アレルギー型気管支喘息にも効果を発揮することから，非免疫学的機序による効果も当然考慮しなければならない。